

職業はブロードウェイ俳優

数少ないアジア人として米国最高峰の舞台に立ち続ける苦労と工夫 由水南

2022/12/15付 | 日本経済新聞 朝刊

私は米国演劇界の最高峰ブロードウェイのミュージカルで、12年にわたり俳優を続けている。オーディションに繰り返し落ちる挫折をバネに、自分の魅力をアピールすることを学び、「職業」としての俳優の地位を維持する数少ないアジア人として舞台に立ってきた。



ミュージカル「マイ・フェア・レディ」で英国人役を演じた（中央）

金沢出身の私は小学生の頃、東京の帝国劇場でミュージカル「回転木馬」を見た。歌と演技と踊りで表現する素晴らしさに衝撃を受け、俳優を志した。2002年、高校卒業後に渡米し、ニュージャージー州の大学に留学。その後演劇専門学校に編入してプロの俳優になるための技術を学んだ。

卒業後はオーディションを次々に受け、半年で88回に及んだ。05年に東部メーン州の地方劇場でインターンとして合格。複数の作品に出演し、総合芸術としてのミュージカルを学んだ。

しかし、米国で外国人が舞台俳優として生活を立てるには、演技力や語学力だけでは不十分だ。「エクイティ」と呼ばれる全米俳優組合に加入し、医療費の高い米国で健康保険などの福利厚生が受けられなければ、職業として続けることは難しい。組合員になる条件として、当時は永住権が必要だった。

アーティストを対象とするビザ（査証）しか持っていなかった私は米国での俳優の道をあきらめ、日本に帰国。07年に劇団四季に入団し、俳優、演出、翻訳、通訳などの仕事を兼任した。しかし、日本公演に来たミュージカル「コーラスライン」に、かつて米国で共演した仲間の姿を見つけ、夢と向き合っていない自分に涙が止まらなかった。これを機に長年交際していた米国人と結婚し永住権を獲得。09年に再び渡米して俳優修業を再開した。

今度はオーディションを受けながら俳優向けのビジネススクールにも通った。演技だけでなく、マーケティングなどの技術を学ぶためだ。

成果が実ったのは10年、ミュージカル「シカゴ」の地方公演でハンガリー人女囚役のオーディションを受けたとき。脚本通りのハンガリー人ではなく日本人女性を想定して日本語で演じることを提案したところ、クリエイティブな発

想だと演出家に受け入れられ、役を勝ち取ることができたのだ。この経験から私は「常識を覆すくらいの発想と、豪快に攻める姿勢がなければチャンスはつかめない」ことを学んだ。

組合員になることもできた。組合員であれば、12週間分舞台に立つと6カ月分の健康保険に加入する資格が与えられる。私が健康保険を12年間切らすことがなかったのは、継続して舞台に立ててこられたからだ。

ついに15年、渡辺謙さん主演の「王様と私」でブロードウェーデビューを果たした。18年の「マイ・フェア・レディ」では唯一のアジア人女性として役を獲得。「ダンスキャプテン」という出演者のまとめ役にも選ばれ、毎公演の緊急事態の対応や稽古での指導などを担った。白人男性が中心だったこの役割を獲得できたことは、アジア人や女優にとって励みになったと自負している。

現在は12月にフロリダ州で公演が始まったミュージカル・コメディ「A Funny Thing Happened on the Way to the Forum」に出演している。日本のインターネットテレビABEMAのリアリティー番組「恋愛ドラマな恋がしたい」の放送も始まり、私はニューヨークで演技指導の「先生役」として出演している。自分の経験を若い日本の俳優の皆さんと共有し、世界に羽ばたく人が増えることを願っている。

(ゆうすい・みなみ=ミュージカル俳優)

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.